

課題解決ワークショップに関する講評！！

市民と行政に関する課題解決策の検討にかかるワークショップの発表について伊佐先生にまとめの講評をしていただきました。紙面の都合によりその後半部分のみご紹介いたします。

【講評】

プロボノ（世間の善いことのために）というラテン語がある。民間も役所も無償で専門知識を提供することで、大牟田市でもNPOが市役所職員の私的な面でのノウハウを活用するなどの協力を得て資金をゲットしたという事例がある。こうした活動を成功させる秘訣は集まって楽しい雰囲気と少しの達成感にある。仕事を離れたところで地域に貢献することで感謝されることから生まれる達成感がそこにはある。こういった取り組みをまちづくりの際に取り組んでもらい、あわせてその仕組みづくりについても考えてもらいたい。また、失敗しても文句をいわれないが、成功したら評価してもらえる仕組みづくりも大事になってくる。情報発信において市民と行政の間にズレがあるといった点については、透明性の高い仕組みが必要であり、また、行政職員が地域に入り地域のためにやってくれる素地作りも必要となってくる。



大牟田市まちづくり基本条例 市民検討会ニュース



市民と行政の課題解決について考える 第4回市民検討会開催！！



まちづくり基本条例講演会を開催しました！！



4月19日（土）にイオンホールにおいて、九州大学大学院法学研究院 教授の出水薫（いずみ かおる）先生をお招きして『みんなで作るまちづくりのルール』と題してまちづくり基本条例講演会を開催しました。

講演では少子高齢化などの影響により30年、40年先の人口構造が大きく変わることによって、税金の減少や社会保障費の増加が生じ、自治体はこれまで行っていた全てのサービスを行うことが出来なくなり、業務の選択と集中を進める必要が生じるようになるということ。また、この選択と集中によって市民と行政が相互不信に陥るのではなく、協働のルールとなる条例を作る過程で市民参加を促し、市民同士の出会いを提供し、市民と行政とが協働を試行錯誤していくことこそ必要なことであり、条例作りはそのきっかけとなるものであるといったお話がありました。

当日は76名の市民の皆さんにご参加いただき、講演に関して熱のこもった質疑応答交わされました。



平成26年4月25日（金）に市役所において第4回まちづくり基本条例市民検討会を開催しました。4/19に開催されたまちづくり基本条例講演会の報告などが行われた後、これまでの市民検討会で抽出した、市民と行政等の役割や協働を進めるための制度や仕組みなどの課題の中から、市民及び行政に関する課題の原因と解決策について5つの班に分かれて話し合いを行い、まとめの発表を行いました。

そこでは市民の抱える課題の解決策として、対話やふれあい、情報の発信・共有、さらには参加することの大切さについて意見がだされました。また、行政の抱える課題の解決としては、市民の声を生かし市民との対話を促進させるといった意見が出されました。

次回の市民検討会では、市民と行政、情報共有及び市民参加の3つのテーマについての課題の解決策の検討を行う予定です！

プログラム

1. 開会
2. 前回の振り返り
3. 班分け
4. 意見集約について
5. 課題と解決策
市民と行政について
6. 閉会



発行

大牟田市市民協働部市民協働総務課（TEL:0944-41-2690 FAX:0944-41-2552）

<http://www.city.omuta.lg.jp/shisei/shiminkatsudou/kihonzystorei/machidukurijyourei-seitei.html>

市民と行政の課題に関する原因と解決策について

これまで市民検討会で検討をした市民と行政の課題について、その原因と解決策の検討を行いました。

これらの解決策をもとに協働の主体となる市民、行政などの役割や、協働の制度、仕組みとして整理していくことによってまちづくり基本条例の原案を検討していきます。

次回の検討会では、市民及び行政、情報共有、市民参加の課題についてその原因と解決策の検討を行います。

1. 市民に関する課題

	原因	解決策
1班	市民と市民の出会いができていない 市民交流の機会の少なさ 人間関係が不器用 自主的な参加が今の現状では難しい	サークル活動ができる（人と人の）対話の場所を作っていく 小地域での「ふれあいサロン」の開設・運営（アソシエーション機能） 全ての世代が参加して協力できる何か 楽しい、ためになる集まりの場をつくる 訪問活動、ボランティアの拡大（アソシエーション機能）
	情報（に触れる機会）の格差 情報が不足していて問題を問題として認識できていない	情報発信を一本化するところを作っていく（頭（ヘッドを作る）） 目玉となる楽しい話題を柱にさりげなく情報が行き渡る仕組み
	高齢化と若者が忙しい 現状・将来の問題点（事実）がわからない 危機感がない	壁を壊す、集まって生活する 将来について学ぶ 自由にものが言えるように聞いてあげる
	共同体意識の希薄さ 不自由していない お金で済ませられる	
2班	参加のキッカケがない 自分のことで精一杯で協力できていない 参加の意識がない、無関心	地域、地縁で参加を頼む 若者の興味を引きイベントの開催 気軽に参加できる活動の情報を発信する 地区公民館の連携
	情報が不足している 世代間、近隣の話し合いの場がない 何をしているのかがわからない	地域を括って問題意識を共有する 情報交換の場をつくる 多くの世代と一緒に活動する場をつくる
	高齢者が多い、増える市になっている 人口減 若者の働く所が少ない	雇用の場を拡大 企業誘致 大牟田市の活性化。人が集まる町にする

4班	仕事が増えた 便利な社会になったこと 生活不安と貧困	社会制度の改革
	核家族化 参加するメリットの不足 周りが見えていない 自己中心的	こえかけ （心・経済的）ゆとり
	元気なシニアの不活用 市民参加活動の見えにくさ 市民の情報収集能力の不足	元気なシニアを情報発信者へ
5班	誰かがやってくれるという甘え 思いやりの不足	ノーマライゼーション思想の普及 思いやりの気持ちを育てる
	無関心 危機感がない 面倒だ 自分がしなくても誰かがやるだろうと思っている 市民としての意識の低さ	周囲への声かけを行い参加を促す （サークル、セミナー）必要だと思うようになること 危機感をあおる（かりたてる）ような機会を作る
	個人情報等が厳しくなった どうよくなるのかイメージがわからない 対話がない 分かりづらい（難しい） 何のためかよくわからない	理解できるまで根気よくわかりやすく説明する 公民館や自治会等への参加を積極的に進める こういうメリットがあると”例”をみせる （みんながみたくなるような）魅力ある広報をつくる 知りたがっている情報を調査 子供を使ってみんなが集う機会をつくる⇒対話 表現をわかりやすくする

2. 行政に関する課題

3班	専門的な職員が不足している 情報提供手段が不足、足りていないと思っている	周囲への声かけを行い参加を促す （サークル、セミナー）必要だと思うようになること 危機感をあおる（かりたてる）ような機会を作る
	個々の意識が低い 縦割り意識（市職員が他の係り、課の仕事を分かっ ていないという意識） 昔からの体質	「俺がやる」という市職員の意識をみんながもつこと「私が市役所 だ！」 研修の内容を変える 一人ひとりが少しずつでも専門分野を広げていく
	相互理解、信頼を醸成する。対話の場、促進者の不 足 自分が正しいと思っていること	相互に助けあう 相手の言っていることをまず認める 「行政」、「市民」の立場をはずした対話と一緒に取り組むことが できる場の創出